

# 複数のフェーズドアレイ気象レーダーを用いた革新的な極端気象センシング技術

## Innovative Severe Weather Sensing Technology Using Multi-Phased Array Weather Radars

\*足立 透<sup>1</sup>

\*Toru Adachi<sup>1</sup>

1. 気象研究所気象衛星・観測システム研究部

1. Meteorological Satellite and Observation System Research Department, Meteorological Research Institute

フェーズドアレイ気象レーダー（以降、PAWR）は、最大で60-80 km までの範囲にある積乱雲を、10-30秒という極めて高い頻度で立体観測する最先端のリモートセンシング技術である。2015年より、気象研究所および日本無線株式会社は、つくば市および千葉市においてそれぞれXバンドPAWRを運用している。本研究では、局地的大雨や台風、突風等の極端気象について、これら2台のPAWRで得られた同時観測データの統合解析を行う。各事例における積乱雲の降水・気流場の3次元時空間構造を明らかにするとともに、複数のPAWRを用いた観測ネットワークが切り拓く、将来の監視・直前予測技術の高度化について考察する。

謝辞：本研究はJSPS科研費（15H03728, 17K13007）の助成を受けたものです。解析には日本無線株式会社が運用するPAWRデータを使用しています。

キーワード：フェーズドアレイ気象レーダー、対流システム

Keywords: phased array weather radar, convective system